

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思う点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾ゆうゆう笠岡1組

公表日 2026年 1月

	チェック項目	はい		いいえ		工夫している点	課題や改善すべき点
		6	0	6	0		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	利用定員は毎月法令に準じて適切に対応している。活動内容によっては小集団で行ったり、活動場所を分散させる等の工夫を行っている。	活動内容の検討段階で、適切な集団規模を事前に確認する。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	配置基準は満たしており、個別支援が必要な児童がいる日には多めに職員を配置している。	個別対応が必要な児童が多い日には職員数が不足する場合があるため、配置体制の工夫を検討する。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	一日の流れを文字やイラストで分かりやすく可視化している。言葉で表現するのが難しい児童には50音表や絵カードを用意している。	児童の言葉にならない思いを表現する際に適切なイラストが見つけられない場合があるため、表情や身振り手振りなども活用しながら伝え方を工夫する。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	清掃表に沿って、日々の清掃に漏れないように掃除を行っている。	当番表に記載のない項目や担当が決まっている部分には掃除が行き届かない場合があるため、当番表の見直しを行う。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	クールダウンの際に部屋を移動する、事務所を利用するなどの工夫をしている。	個室があれば理想的だが、仕切りを活用するなど工夫して、児童が落ち着ける場所を確保する。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	毎朝、ミーティングを行い前日の支援の振り返りと児童の情報共有を行っている。問題点については改善策を話し合い、すぐに改善できる点は迅速に改善・実行を行っている。パートタイム職員にはミーティング記録にて確認を行っている。	今後も、職員が安心して発言できる雰囲気づくりに努める。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎年アンケート調査を行い、保護者様の意見を業務改善につなげている。	事業所での取り組みが保護者に十分に伝わっていない場合があるため、情報の伝え方や伝達頻度を工夫して周知を徹底する。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	ミーティング時や面談等を通して意見を発信する機会を設けている。	心理的安全性の高い雰囲気づくりに努める。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		第三者評価は実施していないが、訪問者等に助言をいただいた際には、その内容を踏まえ改善に努める。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	社内では8月以外、毎月全体研修が行われている。今年度は虐待防止・身体拘束・権利擁護・ハラスメントについて等の研修を行い、基本スキルや広い知識を身につけるのに役立っている。	日々の実践に加え、より深い知識を身につけるため、個人で研修を受けることに努める。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ホームページで公表している。	契約時に保護者様にホームページで確認ができることをお伝えするよう努める。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	半年ごとにモニタリング面談を行い、保護者様・お子さまのニーズや課題を聴き取りながら個別支援計画を作成している。	保護者だけでなく、お子さまへの丁寧な聞き取りと説明に努める。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	モニタリングで得た情報を職員間で共有し、日々の支援で専門的に関わるにはどのように対応したらよいか入念に話し合いを行っている。その上で個々の児童に必要な最善策を考慮した計画を立て、実践、振り返りを行っている。	お子様の最善の利益を考慮する為に、職員の多様な意見を取り入れて検討する。発言数に偏りがない様にどの職員からも提案を出せる雰囲気づくりに努める。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	ミーティング時に職員間で情報を共有し、日々の支援に活かしている。	職員間で定期的に目標と支援内容を確認する。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用するなどにより確認しているか。	6	0	事業所内の様子だけでなく、家庭や学校、他事業所の様子を含めて、アセスメント時に活用している。	お子さまの様子を今後もさらに丁寧に見ていく。		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	個々の発達に合わせ、支援に必要な項目と具体的な支援内容が適切に設定されている。ミーティング時に支援内容を振り返り、より良い支援計画が作成できるように情報を共有している。	未達成課題についてはより細分化した支援内容を検討する。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	月初にチーム全員でアイデアを持ち寄る行事会議を開催している。児童が興味を持って取り組める新しい企画を毎月立案している。	今後も、自由な話し合いの中で新たな企画がでるような場づくりに努める。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	他事業所の活動も参考に、優れた支援内容を取り入れるようにしている。	既存のプログラムも改善点や新たな視点を加えて実施する。		
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	基本的には集団での活動を行っているが、活動や子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせている。集団でも活動が難しいお子さまには、個別で対応し、集団活動に参加できるような声掛けを適切に行っている。	個別で対応しているお子様にも、他者と関わる機会を適切に設けるように努める。		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎朝のミーティング時に、当日の支援について打ち合わせを行っている。一日の流れや役割、注意事項の確認を共有し、チームで連携して支援を行っている。	支援内容が職員の得手・不得手に左右される場合には、職員が積極的に動くよう、事前に具体的な指示を行う。		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	子どもの気になる様子や気付きはその日のうちに話し合い、情報を共有している。翌日のミーティングでも再度チームで支援の振り返りを行っている。	当日中の対応が難しい場合もあるため、必要な内容は数名に申し送りを行う。		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	当日に行った支援の様子は、当日中に終わらせるようにしている。翌日のミーティングにて再度支援の振り返りを行い、職員間で意見を出し合い、支援の検証・改善につなげている。	記録だけでなく、ミーティングでの情報共有を行う。		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	半年ごとにモニタリングを実施し、ご家庭、学校、夢門塾の様子を保護者様と情報共有している。保護者様・お子さまのニーズ、個々の発達に合わせた支援計画の見直しを行っている。	計画の見直しのための時間を確保する。		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	ガイドラインを確認しながら、児童の実態に即して様々な活動を支援している。	ガイドラインを定期的に確認する。		
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	6	0	活動内容の中に、自己選択できるような支援内容が含まれている。自己選択が難しいお子さまには個々に声を掛け、自己表現ができるように支援している。	支援する職員の判断や思いが先行しがちな場合があるため、支援の振り返り時に、お子さまの自立に向けて望ましい支援内容を再確認する。		

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	管理者・児童発達支援管理責任者が参画している。会議後はチーム間に情報を共有している。	広い視野で支援ができるよう、管理者以外の職員も参加できる機会を設ける。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	児童発達支援センター、自立支援協議会、地域福祉課、子育て支援課、教育委員会等、必要に応じて連携している。また、病院の主治医に夢門塾の様子をお伝えする文書を保護者様経由でお渡ししている。受診後、検査結果や支援に活かせる工夫等について文書にて返信をいただいている。	関係機関と連携するための時間を確保できるように工夫する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	学校からの情報提供（下校時刻や行事予定等）を文書でいただいている。電話だけでなく、学校のアプリに関係者として登録しており、急な下校時刻の変更等の連絡調整を適切に行っている。	下校時刻の急な変更時には、保護者の協力を得るようにする。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4	児童発達支援事業所での様子を文書にてお知らせいただいたり、相談支援事業所や保護者を通じて様子をお伺いしたりと、情報共有に努めている。	今後も、他機関との連携を通じて、より良い支援が行えるように努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	6	現在、障がい福祉サービスへの移行対象者がいない。	今後対象者が現れる可能性もあるので、記録内容の充実にも努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2	児童発達支援センターも参加している、自立支援協議会の子ども部会にて、事業所見学や会議でのグループワークを行い、支援についての助言を受ける機会がある。	管理者、児童発達支援管理責任者だけでなく、他職員も研修に参加できる機会を設ける。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	6	公園・図書館等で交流する機会がある。また、地域のイベントに参加し、交流する機会を設けるようにしている。	地域イベントの告知が直前になることが多いため、行事プログラムへの組み込み方法を工夫する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	協議会の子ども部会に積極的に参加しており、今年度は事業所見学も兼ねてR7年11月に夢門塾での開催も行われた。	管理者だけでなく、職員も参加できる研修では、積極的な参加を促す。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	ご利用の様子を、連絡帳やコドモン、送迎時に保護者にお伝えしている。気になる様子が見られた場合、当日中に保護者様にお伝えしている。保護者様から伝えて来て下さることもあり、相互に共通理解に努めている。	送迎時にも、お子さまの頑張っている様子を積極的に伝えていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	外部で行われる研修案内は、玄関先のポスターの掲示や案内資料を手に取りやすく配置し、情報提供を行っている。また、事業所では個別ではあるがご家庭での困りごとについて、話し合いの機会を設け、職員とお子様の対話のやりとりを見ていただいた。	有益な情報は、コドモンからもお知らせできるよう努める。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に丁寧に説明を行っており、質問等があれば適切に対応している。	今後も、保護者からの質問等に随時対応できるように、職員間で情報を共有していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	アセスメント時に丁寧に保護者様のご意向をお伺いし、お子様にとって優先される支援の確認を協働で行っている。	支援者の視点を加え、優先支援の提案を行うことも検討する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	放課後等デイサービス計画（個別支援計画）の内容を保護者様と一緒に確認し、計画について同意をいただいている。	保護者の同意のもとで、お子さま自身にも内容を把握してもらおう機会を設けることも大切であるとする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	電話でのお話や面談の機会を個別に設け、保護者様の子育てのお悩み等について、適切な助言と支援を行っている。	気軽に相談できる場所であることを、契約時にも改めてお伝えする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	夏祭り週間の参観日を通して、保護者・きょうだい同士が交流できる機会を1週間設けた。	気軽に参加できる交流会の内容を検討する必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	お子様や保護者様からの苦情があれば、迅速に対応を行う。必要に応じて相談支援専門員を含めて対応をしている。	自分から発信が難しいお子さまにも配慮し、支援に活かす。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	毎月1回、おたよりの「ゆめだより、行事予定の「夢通信」を発行している。また、ブログにて活動内容の発信をしている。	活動概要やお子様の頑張りが伝わるよう、表現方法を工夫する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報関連書類は事業所に保管し、持ち出し厳禁にしている。写真の取り扱いに関しては二重チェックを実行。職員は就職・退職の際、個人情報厳守の誓約書を出している。	今後も契約時の肖像権使用同意書への丁寧に道具の聞き取りを行う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	絵カード等、視覚での支援や、文字盤を活用し意思疎通を行っている。お子さまだけでなく、保護者様へも分かりやすい言葉や表現、文章量でお伝えしている。	多様な方法を用いて、個々に合わせた伝え方の工夫を怠らないようにする。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	地域の方へのご挨拶を定期的に行っている。	十分なスペースが確保できないため、事業所へのお招きは物理的に難しいが、見学希望の際には随時受け付けている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	各種マニュアルを策定し、職員間で周知している。避難訓練時は避難場所をコドモンにて保護者様へお知らせし、実施している。	緊急時に適切に行動できるよう、訓練時に道具の場所なども周知する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	業務継続計画（BCP）を策定しており、避難訓練の際にはマニュアルの「防災及び災害対策」を参照しながら訓練を行っている。	事業所の現状に即した訓練が行えているか、再確認の必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に聞き取りを行い、状況確認を行っている。てんかん発作に関しては緊急時の対応法、病院の連絡先もお尋ねし、迅速に対応できるように準備している。	どの職員も発作時に対応できるよう、定期的に内容を確認する必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	重篤なアレルギーのある児童はいないが、契約時にお聞きした避けたい方が良い食品に関しては、保護者様に再度確認をして提供を行っている。	今後も契約時に丁寧に聞き取りを行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画を作成し、計画に沿った研修や訓練が行われている。	今後も訪問者等に助言をいただいた際は、改善に努める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	避難訓練時に、事前に避難場所をコドモンにてお知らせしている。	保護者へこまめに報告できるよう努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットが起きた際には記録を必ず残している。ミーティング時に記録を提示しながら改善策を話し合い、改善策の周知と実行を行い、再発防止に努めている。	危険が予測される物の配置は、常に状況を把握し注意を怠らない。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	年に2回虐待防止研修を会社全体の研修で行っている。	外部の研修への参加も検討する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	契約時に身体拘束の必要がある場合について丁寧に説明している。基本的には身体拘束は行っていないが、安全確保の為、一時的に実行した際には保護者様に状況をお伝えし、記録を残すようにしている。	お子さまの安全を第一に考え、対応策を把握しておく。	
保護者様評価、自己評価についてまとめ						
アンケートの結果から、保護者様やご利用者が、夢門塾での活動プログラムや支援に満足し、楽しみに通所されている様子がうかがえました。今年度はより専門的な視点取り入れ、5領域を意識した運動・学習・生活プログラムを職員間で検討し実施しています。来年度も集団の中で役割や他児との関わりを活かした活動を充実させるとともに、自己表現やコミュニケーションの機会を増やしていきます。引き続き、保護者様や関係機関と連携し、ご利用者様の強みを伸ばす支援に努めてまいります。						